

お散歩感覚で
鯖江の市民活動がわがっちゃうブックレット

OSAnPO

～7歩目～





■こっしえるん。…8 p



■(特活)さばえスポーツクラブ…10 p



■チラシ&ポスターで振り返る
さばえNPOサポートのH30年度…16 p



■編集後記座談会…18 p



■サバヌシ総会2019…4 p



■N・P・Oのひとびと 第3回
「奥越前まんまるサイトのひとびと」…12 p



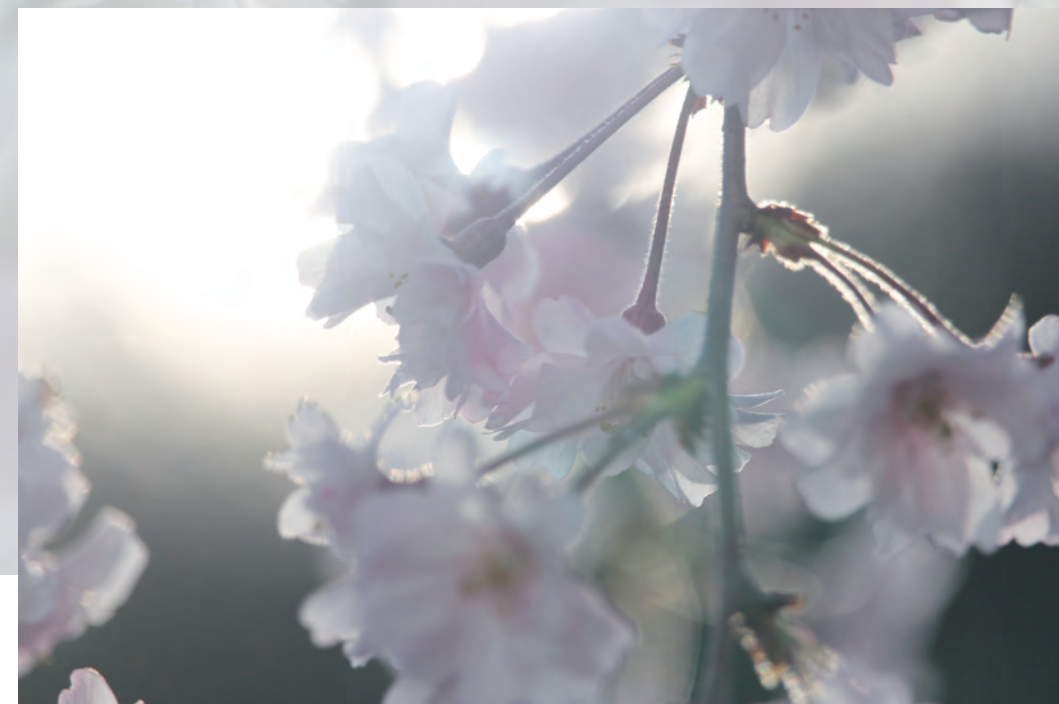
■コラム「NPOとボランティア」…14 p

目次

巻頭特集「サバヌシ総会2019」	4 p - 7 p
団体紹介①「こっしえるん。」	8 p - 9 p
団体紹介②「(特活)さばえスポーツクラブ」	10 p - 11 p
特集「N・P・Oのひとびと」第3回 「奥越前まんまるサイトのひとびと」	12 p - 13 p
コラム「NPOとボランティア」	14 p - 15 p
巻末特集「チラシ&ポスターで振り返る さばえNPOサポートのH30年度」	16 p - 17 p
編集後記座談会	18 p - 19 p

『OSANPO』について

■ぶらり“お散歩”感覚で、さばえのNPOや市民活動のことが、気軽に楽しくわかる…それが、「OSANPO」のコンセプトです。
■タイトルに隠れた「NPO」(非営利で活動する組織)は、実は身近な存在で、その気になれば、今すぐ、誰でも参加することができます。…そう、まるで“お散歩”のように☆…



言動力が

原動力!



▲自作の“カブ”を持って笑顔でポーズ!!



サバヌシ総会2019

主催：サバヌシ総会実行委員会 共催：鯖江市
日時：平成31年2月11日(月) 13時00分～
場所：鯖江市民活動交流センター

今回で2回目を迎えるサバヌシ総会。

「市民は市の“株主”である」をモットーに、市民力を体感するこのイベント。

『ひとりひとりの言動力が原動力』のキャッチコピーのもと、多くのサバヌシ（サバエの株主）たちが集まったその中身、少しづつご紹介していきます。

『市民力は地域にあり!』

まず第1部は、『サバヌシ増殖中! まちづくり応援団』。

平成25年度から5年をかけて、市内全10地区で開催された『市民まちづくり応援団養成講座』は、地区に住む市民自らが、自分たちの地域のまちづくりをしていくために、その核となる人材を増やしていくことを大きな目的としていました。

養成講座終了後、まさにそれぞれの地区で“増殖”した皆さんが、自分たちの特色や個性を活かした活動をしているのが各地区の『まちづくり応援団』。

第1部は、その活動発表の場です。『まちづくり応援団』発想の源流ともなった北中山地区の、『北中山まちづくり委員会』の森本さんを筆頭に、

特徴的な活動をしている5地区の皆さんが次々にステージに上がり、生き生きとした表情で地域活動の楽しさや成果を語ります。

オリジナルの衣装を身にまといたり、時には冗談を交えたり、観覧していた方が突然ステージに上げられる一幕があったりと、とても和気あいあいとした雰囲気。

各地域、市民が丸となって知恵を出し合い、活性化に取り組んでいる様子を垣間見ることができました。

最後は、北中山地区で健康を願って行われる“会合のシメの定番”、万歳三唱ならぬ『笑いの三笑』!

会場が元気で笑いで満たされます。全国でも注目される鯖江の市民力は、間違いなく、『地域』と『市民一人一人』に根づいていることを再確認できる時間となりました。



△アイデア出しの大切なルールは『否定しない』こと

『ブっ飛んだ発想大歓迎☆』

続く第2部は、それぞれの参加者が鯖江の未来を考え、アイデアを出しにくる『サバヌシ未来会議』。

各テーブル、ファシリテーター（進行役）を中心に、お題に沿って真剣にアイデアを出し合います。

この日は、前半と後半に区切った2部構成で、前半のお題は次の4つ。

- ① 鯖江市民全員でサバイバルゲーム! 10日間外部支援なしで
- どうやって切り抜ける?
- ② 犯罪件数世界一の街って?
- ③ 『さばえテーマパーク』どこになにをつくる?
- ④ 『鯖江株式会社』設立! 無駄をなくす? 魅力をのばす?

…と、どれもユニークな内容。「レッサーバンダを放し飼いにしてみよう」なんて夢のあるアイデアが聞



▲第1部では、北中山・鯖江・立待・神明・新横江各地区の皆さんが、まちづくりの活動を紹介



▼締めは『笑いの三笑』で「わーっはっはっはっ!」

▼子どもたちも、真剣に“カブ”を置くテーブルを吟味中





▲紙芝居や体操など
個性溢れるコンテンツも



▲▶第3部では、牧野市長も各ブースを巡って交流

▼鯖江小唄の踊りも華を添える



『そんな団体さんもあったんだ〜!』

第3部は、サバヌシたちの出展で賑わう『まちづくり大博覧会』。
市民活動団体、社会の課題解決を大きな目的に据える『ソーシャルビジネス』の担い手、そして、まちづくり応援団の有志の皆さんなどがブースを構成、会場をぐるりと囲みます。
好きな団体で話を聞いたり、お買い物が出来たり。また、ステージ横にはまちづくり応援団の活動をまとめたパネル展示もあり、どこに行こうか迷ってしまいます。

牧野市長が順番に各ブースを訪問する様子は、会場内のスクリーンにも映し出され、各団体さん一押しの商品や楽しいエピソードを会場全体で共有とても和やかなムードがあたりを包み込んでいました。
途中、地域の踊り文化を楽しむ団体さんによるパフォーマンスも披露され、会場内を踊りながら練り歩く姿は美しく、思わず買物をする手も止まりました。

また、学生の地域活性化プランコンテストで提案された地域通貨のアイデア「sabaco（サバコ）」の利用体験も実施。
出展者のワークショップに参加したり、ブースのスタッフに事業内容など

鯖江市民の底力を再認識した今回のサバヌシ総会。

『市民主役』を旗印に、最近では海外でも名を知られた鯖江市ですが、行政や一部のリーダーだけがどんなに頑張っても、成果はうわべだけのものになりがちです。
もし、鯖江に本当の『素晴らしい』があるとしたら、それは、普通に生活している、市民一人一人のエネルギー『市民力』のたまものではないでしょうか。

「一見、地味に思える小さな活動や、人生での何気ない行動が繋がり、影響し合うことで、地域のエネルギーは生まれてくるもの…」

そんなイメージを持てるこそが、もしかすると『サバヌシ』としての資質なのではないでしょうか。

についての話を聞くことで、感謝の気持ちと一緒に『sabaco』券が手渡され、会場内のお買い物に利用することもできました。
活動する側のアピールと、参加や利用をする側のニーズが出会う場としての大博覧会。
後日、ある出展団体関係者からのお話で、サバヌシ総会で出会った参加者の方から、お仕事のオフアワーがあったとのこと。
商品や情報のやり取り以上に、気持ちの繋がりが生まれた時間となったようです。



▲『まちづくり応援団』のパネルを熱心に読む参加者



◀JK課オリジナルスイーツも早々に完売

『ディープ&リッチ』

最後は、サバヌシ同士の懇親会。地域に関わる団体さん達にお願いした美味しい料理&スイーツと共に、今日一日の思い出や今後の未来について、色々な話が広がります。

参加者の皆さんのアピールタイムも話の種となり、次の会話が生まれます。立場や世代、仕事や価値観…まさに多様性に富んだ皆さんの交流は、きっと新しいアイデアを生み出すきっかけになったのではないのでしょうか。
自然と同様、違うもの同士が触れあうところから、新しい何かが見つかることもあります。

懇親会は、そんな『ディープ・オブ・サバヌシ』を楽しめる濃厚な時間となりました。



▲▲美味しい料理をビュッフェスタイルで



▲スピーチで“思い”を語る



市外からの飛び入り参加者も見られた他、当日ふらりと会場を訪れて、ガッツリ参加された市民の皆さんも多かった『サバヌシ総会2019』。
それは、このイベントを身近なものとして受けとっていることの現れだったのかもしれない。
終始笑顔が溢れる会場からは、一人一人の明るい未来が見えてきます。
『サバヌシ』として集い、自分たちの未来と可能性を語り合うこの総会、今回は参加を逃してしまった方も、次回はずいぶん気軽に覗いてみてはいかがでしょうか。
きっと、サバヌシとしての“新しいあなた”に出会えますよ。



▲居心地の良い店内は、様々なアート&工芸作品などのギャラリーとしても活用されている

『こっしえるん。』も、決して順風満帆だけで来たわけではありません。カフェの経営も、キッチンカーでの出張販売も、いつも課題と隣り合わせ。その上、知り合いや行政から持ち込まれる「助けて」や「お願い」のオフアーに、無理を覚悟で応えることも

『仲間がいたから』

つまり「困ったもんだ」と思いながらも、目標に向かって、手伝い見守ってくれる人が何人もいるということ。よほどの信頼関係が無いと出て来ない『被害者』+『友の会』という奥深いネーミングも、強い仲間意識を共有できている証拠なのでしょう。この調子だと「被害者の輪」は、より大きくなりそうな気配です。（笑）

度々あったそうです。それでも、どうにか切り抜けて来れた理由は？…と聞くと、「仲間がいたから。」とのことお返事が。「私は、いろんなことを、まわりに助けられて実現させてもらってきたって本当に思うし、『出合い』とか『仲間が増えること』が何よりも嬉しくて、続けられてるんだなって思う。私って、『人』が好きなんだわ。」そんな言葉が自然体で出てくる上嶋さん。もしかすると『こっしえるん。』は、「仲間と運営してるプロジェクト」というよりも、「プロジェクトの形をしたコミュニティ（共同体）」なのかも。…そんな考えが頭の中を通り過ぎていきました。

『“創る”を応援!』上嶋さんは、『こっしえるん。かふえ』の場を、色々な創作活動の支援のために活用したいと考えています。「たとえば、自分のカフェを持ちたいと思う人たちには体験の場にしてもらえるし、アートや音楽やクラフトを学ぶ場としても貸し出せるでしょ?」もちろん、展覧会やイベント会場としての利用は、既に十分実績があります。『こっしえるん。』の名は、福井弁の「こっしえる（こしらえる）」がルーツ。「食だけでなく、創造すること全般を応援するのも納得です。…ん?」…でも、最後の『。』は? 「私ね、おしまいには『まるくおさまる』のが好きなのね。ケンカや誤解があったとしても、最後はみんな『環』になれる…みたいな。」なるほど! それが『被害者』が『ブレイン』になってしまいう秘密なのかも。『こっしえるん。』の前途には、まだまだ広い可能性が広がっているようですね。

▲カウンターには採れ採れる地元農産物が並び日も



▲棚に飾られた地域グッズや、作家さんのクラフト作品なども購入できる



- 定休日：水曜日・日曜日・第4木曜日
- 営業時間：10:00~17:00（ランチは11:30~14:00）
日替りランチ…800円
- イベント、お教室等でも使用可（10名~/要相談）
- キッチンカーでの出店・出張販売等もいたします

〒916-0022 鯖江市水落町2-25-28
鯖江市文化の館内
TEL:090-8264-4719



こっしえるん。 検索

- 代表者…上嶋 睦美
- 活動開始…2018年4月1日
- 正会員数…3名(2019年3月現在)
- 賛助会員…なし

ボランティア募集中!

◎活動目的

市内外の皆さんに、鯖江の野菜や食材をより身近にしてもらうため、お料理やメニュー開発等で頑張っています。

料理も仲間もこっしえるん。

こっしえるん。

まちづくり 環境 教育 文化



▲取材当日は“開発途中”だったイチゴパフェ完成版は、ぜひお店で☆(季節限定)

2018年4月1日、鯖江市文化の館の喫茶室がリニューアル。
こっしえるん。かふえとしてスタートしました。
地元の野菜や食材を使うことにこだわり、キッチンカーであちこちのイベント会場でも料理を提供。
そんな活動の奥には、食文化だけにとどまらない「創りだすことへの思いが、ひしひしと感じられました。」

『地元愛に溢れる ソーシャル・ビジネス』

取材でお店に入ると、代表の上嶋さんは常連さんとおぼしき人と会話中。どうやら、好きなメニューについての話題らしく、丁寧ながらも気取らないやりとりで、ホッネを大切に作る生き様が見え隠れしていました。『こっしえるん。』は地元の野菜や食材にこだわり、カフェを経営しつつ、生産者（作物）と市民（家庭）をつなぐための様々な活動を行っている団体です。

こういった、社会の課題解決の比重が大きなビジネス形態のことは『ソーシャル・ビジネス』とも呼ばれます。上嶋さんたちは、『吉川ナス』『さばえ菜花米』『山うに』といった鯖江産の作物や食材を市の内外にアピールし、実際に食べてもらう文化を醸していくために、イベントへの出店やメニュー開発などにも力を注いでいます。

地元とお客さんへの愛情でんこ盛りのお料理は、まさにその結晶です。

『ブレインは 被害者友の会!』

「実は、私に『迷惑かけられた』っていう人たちの『被害者友の会』ってのがあるんです。」

一瞬、意味不明のフレーズに混乱しつつ、よくよく聞いてみると…なんと、この『友の会』のメンバーこそが『こっしえるん。』の大切なブレイン部隊だとか。

「私、よく勝手に突っ走っちゃったり、採算考えずにミスしたりとか、いろいろやらかしちゃうもんだから、『独りでやらせとくとロクなことがない!』って人が多くて…（笑）」



▲代表の上嶋睦美さん

地域スポーツの どこでもドア



▲陸上スクール
写真提供：(特活)さばえスポーツクラブ



▲事務所のあるスポーツ交流館は、サンドーム福井のおとなり



▲カワイイ体育教室
写真提供：(特活)さばえスポーツクラブ

特定非営利活動法人

さばえスポーツクラブ

まちづくり 教育 福祉 文化

『スポーツ』と聞いて、“好きな人がやっているもの”や“観るもの”というイメージを持つ人も多いかもしれませんが、でも、スポーツのフィールドは、もっと身近に広がって、私たちの生活や人生を元気づけ、豊かにしてくれています。クラブマネージャーの石田八州子さんに、地域と共に歩むスポーツの未来について、熱く語っていただきました。

『ゆるい体育会系?』

『さばえスポーツクラブ』は、鯖江でも老舗のNPO法人のひとつ。そのホームページを見ると、提供しているスポーツプログラムや、紹介サークルの豊富さに目を見張ります。

「うちのウリのひとつは『間口（まぐち）の広さ』なんですよ。」

スポーツは入りやすく続けやすいことが大切。

まずは、つまみ食いでもいいので、いろんな種目やグループの中から、気軽に体験していただいて、自分に合ったものを見つけてもらえるといいと思います。

より本格的なステージに進みたければ、うちをステップに、次の段階にジャンプしてくれたらOKですしね。」いわゆる「体育会系」的な人間関係ではなく、楽しくお互いに交流しながらの活動を信条としているのがよくわかります。

年会費は5000円。それで色々なスポーツとの出会いを体験できるので

『地域のスポーツを 地域で支える』

スポーツには、テレビや大会で目にする競技スポーツの他にも、様々な顔があります。

『教育』『文化』『交流』『健康促進』など、人生のそれぞれのシーンでスポーツと関わるチャンスがあり、その時々目的も多彩です。

「だから、これからは地域のみんなが参加して、楽しんで、支えるようなスポーツとの関わり方が大切なんだろうと思うんですよ。」

実際、社会からのニーズの多様性に応えるためには、もう過去に積み上げられた仕組みだけでは、限界を感じる場面も多いとのこと。

子どもたちのスポーツへの興味を維持することや、指導者の人材確保も含め、幅広い生き方にフィットしたスポーツのありかたは、一部のプロフェッショナルだけが運営するものではなく、

だとしたら、スポーツの持つコミュニケーションの力を、地域のつながりの中でとらえ直し、活かすことは『あたりまえ』に思えませんか？

さあ、あなたも今日から、レッツ、スポーツ!!



▲事務局としてクラブを支える石田さん(左)と福嶋さん(右)

『国体、楽しかった☆』

平成30年は、福井で国民体育大会（国体）が開催された年でした。もちろん、ここでも『さばスポ』メンバーたちが大活躍!

競技種目での成果はもちろんですが、競技以外の、レセプションや開会式などの場面でも、子どもから大人まで、たくさんの方が参加して、大会を大いに盛り上げました。

関わった石田さんも、色々辛いこともあったと言いつつも、素晴らしい体験ができた振り返ります。

「実は開会式の前日リハーサルの時、何千人も集まった会場で、全米チャダンス選手権で優勝した『JETS』（福井商業高校）のメンバーが、『頑張ってる皆さんのために』って、私たちが『応援』してくれたんですよ。」

あの時は、さすがにジーンと来ちゃいました〜♡

一部報道などでは、多少斜に構えて「盛り上がりすぎていたのかも?」との発信もありましたが、大勢で、ひとつのプロジェクトを達成することは、



▲さばスポキッズダンス「レガル」によるダンスの披露
(体操競技開会式)

■2018年開催の「福井しあわせ元気国体」でも、クラブの皆さんが大活躍
写真提供：(特活)さばえスポーツクラブ



▲リラックス・フラ教室会員さんの踊り
(大会前レセプション)

◆リスタートフレッシュアップ事業
(鯖江市と協働)

◆地域スポーツとトップスポーツの
好循環推進プロジェクト
(H25~H27・文部科学省委託事業)

◆体育大好き支援事業
(鯖江市内の全小中学校)

◆アクティブ・エイジング健康事業
(鯖江市と協働)
…など

これまで
こんな活動もしています



基本
データ

正会員募集中!

賛助会員募集中!

〒916-0045 鯖江市宮前2-9-1
鯖江市スポーツ交流館内
TEL:0778-51-8618
FAX: 同上
http://sabae-sc.or.jp/
sabae-sc@dune.ocn.ne.jp

●理事長…森田 末廣
●活動開始…2000年9月1日
●正会員数…1150名(2019年1月現在)
●賛助会員…3社

◎活動目的

地域住民の生涯スポーツ振興や、スポーツを通じて子どもの健全育成を図る活動を行っています。

奥越前まんまるサイトの巻

おくえちぜん

N・P・Oのひとびと —第3回—

▼鯖江の「市民まちづくり応援団養成講座」でも5年にわたり講師を務めた



代表の坂本均さん



奥越前まんまるサイト

〒912-0131
大野市南六呂師169-124
TEL: 0779-67-1117
FAX: 同上
http://okuetsu-manmaru.com/
manmarusaito@goo.jp

NPOに関わる『人』にフォーカスするこのコーナー。
3回目は、奥越前（主に大野市）で自然体験を通して自然と人との共生を感じてもらおう事業を展開されている『奥越前まんまるサイト』の坂本均（さかもと ひとし）さん取材しました。
全く畑の違う職種からの華麗（？）なる転身や、鯖江市をはじめとする県内各地でのワークショップ講師を務めるなどの多彩な才能と、引き出しの多いお話で、こちらがワクワクした時間でした。

『福祉系→環境教育』

——元々は福祉系のお仕事をされていたとお聞きしましたが、現在の職種に変わられたきっかけはなんだったのでしょうか？

坂本 福祉系の学校を出た後、一旦は普通に会社勤めをしていたんですけど、やっぱり自分の持っている資格を活かした仕事をしたいと思って、児童養護施設や療育センターに勤めました。でもある時、レイチェル・カーソンの『沈黙の春』という本を読んだ時に衝撃が走ったんです。

この本は1960年代に、化学薬品が自然環境に与える影響を訴えたものなんですけど、当時は、まだ『自然との共生・共存』とか『環境教育』とかいう考え方が、広く普及してなかったんでしょうね。正直「こんな世界があったのか！」って感じでした。そこから、本気で今の活動の方向に舵を切ることになったんです。

『身近にあるけど 気づかない』

——今の活動の概要を教えてください。
坂本 皆さん、都会に住んでいても田舎にいても、それぞれの自然が自分自身の周りにあると思うんですよ。それを感じてもらおう感受性を、体験を

か？

坂本 鯖江の人たちの「自分たちのまちを自分たちで良くして行こう」という熱意とその熱意を持っている方々の多さにびっくりしました。

鯖江市は市民活動が活発だと聞いていますが、ワークショップをやっているためにも進行がうまいですね。まちづくりのための意見抽出とまとめに慣れているのじゃないかな。

いつも感じるの、自然も人もお互いを尊重し合う（否定しない）と言うことが大事だと思います。鯖江の人たちは議論の中で自然にそれができているのが素晴らしい。

『紡ぐ人を増やしたい』

——坂本さんのこれからの目標などもお聞かせください。

坂本 実は、少子高齢化が、自然との関わりを困難にしているように感じています。

集落や地域だけでなく、県や国単位でも、自然保護・保全・管理に関わる『人』のパワーが落ちてきている。

その大切さを知るための『自然・環境教育』も、特定の人たちを対象にしていたのでは追いつかなくなっています。これからは、自然・環境という『糸』を、一般の多くの人たちと一緒に『紡いで』もらうことが重要です。そのための機会や場を提供するために、『ハックルベリーの森』をラボ化する



▲雪の里山をスノーシューで楽しむ
写真提供：奥越前まんまるサイト（2枚とも）



▲小枝のネイチャークラフト体験

ことも考えています。
新幹線延伸や中部縦貫道の整備による交流人口の増加も、持続可能な組織経営への可能性を感じますね。
自然同様、変化する環境に適応しながら、新しいステージを目指しますよ。

朗らかな中にも、キリリとした信念を感じる熱いトーク、まことにありがたいと思いました！

通して呼び覚ましてもらいたい……って言うのが活動の主旨です。
今、メインにしているフィールドは、大野市の六呂師高原周辺が多いんですが、『ハックルベリーの森』と名付けた森（約2haの平らな雑木林）や九頭竜湖でのカヤック体験、四季折々の川遊びなど、都会には無い自然の中でそれを感じてもらおうことから始めています。

『自然も人も
尊重し合うことが大事』
——話は変わりますが、坂本さんは鯖江市で『市民まちづくり応援団養成講座』の講師を務めておられますよね。その時々で対応を変えなければならぬワークショップ講師のスキルと云うのは、どこで学ばれたのですか？
坂本 特別、ワークショップの講師としての学習をした訳ではありません。今の仕事をするために必要な資格を取るために受講した講座やその中の討議を通して身につけたものです。
鯖江市で『市民まちづくり応援団養成講座』に関わられていかがでした



▲サマースクールで大野の川を渡る
写真提供：奥越前まんまるサイト



コラム NPOとボランティア

認定特定非営利活動法人 さばえNPOサポート
理事長 八田 登師男

今回は『NPO』について考えてみたいと思います。

『NPO』に対する誤解

まずは、『NPO』※について考えてみましょう。

※注：ここで言う『NPO』とは、特定非営利活動促進法（通称：NPO法）で承認されたNPO法人だけでなく、公益・一般社団法人や法人格を持っていない（利益を上げ、役員等で分配することを目的としていない）団体も含めた、広い意味でのNPOとしてお考えください。

『NPO』とは、『Non profit Organization』（直訳：非営利団体）または『Not for profit Organization』（直訳：営利を目的としない団体）の頭文字をとったもので、団体の性格としての本来の意味とすれば後者の方が近いかと思います。

しかしながら、世間の方々からは「NPOなのにお金を取るの？」とか「儲けたらダメなんじゃないの？」とか言われることがしばしばあります。

これは『非営利』と言う言葉についての解釈の問題です。

ここで言う『非営利』とは、『利益を上げない』と言うことではなく、『利益を役員や会員等で分配しない』と言うことです。

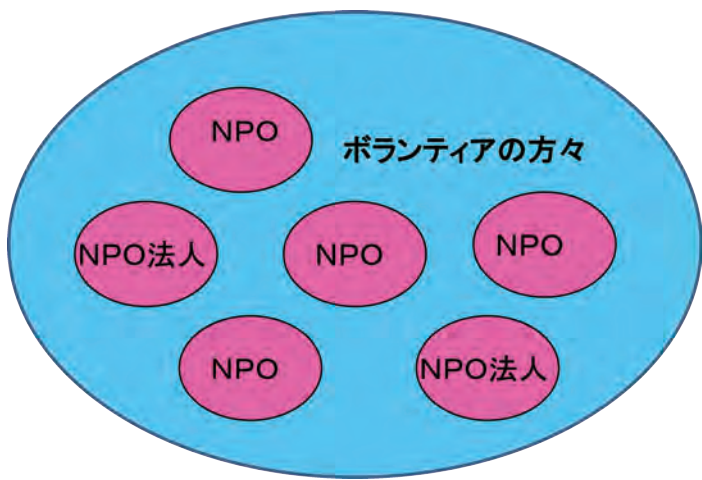
1年間、いくつかの事業を行って最

ければなりません（

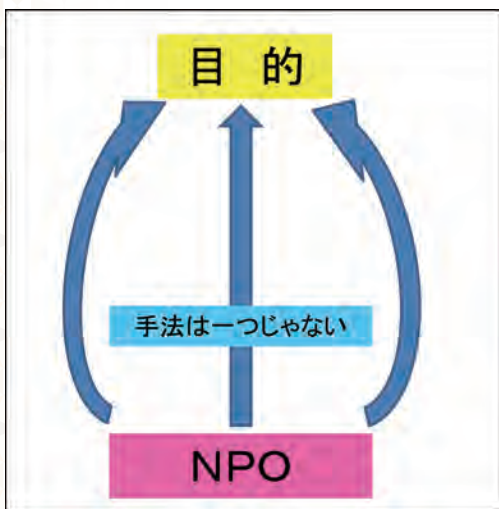
その目的に対してボランティアの方々が集まってくださいます。NPOはボランティアの方々に支えていただいており、NPOが持続するためには、ボランティアの方々の継続的支援が必要不可欠です。

よくNPOの方々から「構成メンバー（ボランティアの方々）が、発足当初からほとんど変わっておらず、年々高齢化している。このままでは活動の継続が危ぶまれる。」と言うようなお話をお聞きすることがあります。

これらの団体の多くは、「（毎年ほぼ同様の「事業を行う」という手法が先に立ってしまい、発足時の目的が希薄になってしまっているのが現状です。目的は明確で確固としたものでなければなりません、目的達成のための手法は柔軟でなければなりません。



第一章では触れませんでした、NPOを構成する上で最も重要なことは、「何を目的として活動する団体なのか？」と言うことです。（この場合、その目的はあくまでも『公益的』でな



最終的に利益が生じた場合、営利企業は、株主配当や役員・社員等に決算賞与として利益を分配しますが、NPOの場合は、次年度の費用を持ち出す事業に充てるなど、その利益を分配しない団体と言うことです。

もちろん、団体として上がった収益に関しては、そのNPOが法人化（特定非営利活動法人や社団法人等法人格に関わりなく）されていれば法人税を支払います。これは、企業と同様です。

ボランティアの三要件：

自発性・公共性・無償性

NPOの三要件：

公共性・先進性・非営利性

「」の言葉が誤解されている

鯖江市は、NPOの活動が非常に活発で、施設の指定管理や提案型市民主役事業などを受託し、任されており、先進的であるとの評価を良くいただきます。

また、目的そのものも、時代背景や社会情勢の変化で変わってくる場合が多々あります。

目的についても定期的に見直すことも必要でしょう。

目的が明確（分かりやすく）で、多くの人の共感を得られるものであれば、それを支えてくださる方々は、（声掛けはもちろん必要ですが）集まりやすくなります。

まだ他にも重要な要素はあるのですが、紙面の関係で今回は割愛させていただきます。

また別の機会にご披露したいと考えております。

まとめ

さばえNPOサポートは、中間支援組織（これはNPO用語です）と言われている。

何と何の中間で何を支援するの？...と言うことですが、私どもは、市民の方々、行政、企業、さまざまなNPOの中間にすることを目指しています。

また、市民の方々がボランティアに対して興味を持っていたかどうかや、行政・企業とNPOとの橋渡しをしたり、相互に理解し合うこと、また（良い意味で）利用し合うこと、NPOが活動しやすい基盤や土壌を作ることを目ざしています。

そのためには、世間に蔓延しているNPOやボランティアに対する誤解の

しかしながら、それらの事業決算の際に「利益が上がるのなら委託金額を減らすべき」などの意見が出されたりすると、まだまだ理解は深まっていな

『ボランティア』に対する誤解

次に、『ボランティア』について考えてみましょう。

これも世間の方々から、「お金（報酬）をもらったらボランティアじゃない」とか「自分はボランティアで来ているのでお金はもらえない（いらない）」と良く言われます。

前者はボランティアに対する誤解で、後者については一部誤解はあるものの『心意気』の表れと言えます。

ボランティアの三要素は『自発性』『公益性』『無償性』です。

この三要素の中で最も重要なのは、『自発性』で、次が『公益性』です。

日本で『ボランティア』という言葉を使う場合、前記の『ボランティアの方々の心意気』を当てにするあまり『ボランティア』ただで使える人員』と多くの人々が思い込んでしまい、

「この事業運営は、ボランティア（無償）でお願いします」と言うような訳の分からない言語が発せられたりすることとなります。

これらの傾向は、行政やそれに近い団体に多いように思われます。

払拭、NPO自身が持続可能な組織として自立して行くことが非常に重要です。

今後もそれらのために活動を継続して行きますので、どうぞ暖かく見守ってください。また、叱咤や激励も多分に賜りますようお願い申し上げます。



【2019. 2. 11 (月・祝)】〈サバヌシ総会2019〉
(提案型市民主役事業)

提案型 市民主役事業

市民は市の“株主”である

サバヌシ総会 2019

【主催】サバヌシ総会実行委員会【共催】鯖江市

2月11日(月・祝) 13:00~

■会場 鯖江市民活動交流センター (鯖江市長泉寺町1-9-20)

■申込締切: 2月5日(火)

ひとりひとりの言動力が原動力!

●市民一人一人が「鯖江の株主」=「サバヌシ」である。それが「サバヌシ総会」の考えです。

●“お客様”ではなく、責任ある“株主”として地域にコミットする。…その入り口のひとつが、この「サバヌシ総会」です。

●ぜひあなたも、「サバヌシ」として“未来のビジョン”を語り合う熱いイベントにご参加ください!

■参加費 無料

●出展ブースでの売買は有料
●懇親会参加費: 1,000円/1人 (地域通貨「ハビシ」でも可)

お問合せ: 認定NPO法人 さばえNPOサポート
TEL: 0778-54-7055 FAX: 0778-54-7058 E-Mail: info@sabae-npo.org

提案型市民主役事業 市民まちづくり応援団養成講座 まちづくり事業 再炎上講座

〈市民まちづくり応援団養成講座〉
【2018. 10. 11 (木) / 10. 24 (水) / 11. 15 (木)】
まちづくり事業再炎上講座
(提案型市民主役事業)

任意団体さん“人ごと”ではありません

消費税改正前に!
安心消費税対策
セミナー

～軽減税率・経過措置・インボイス制度～

8% → 10%
軽減税率 8% 軽減税率 10%
契約時期と税率

【日時】1月22日(火) 13:30~15:00 (13:00 受付開始)
【場所】鯖江市民活動交流センター 大会議室
【受講料】1,000円 (1団体5名まで、5名以上おひとりにつき500円追加)
【講師】高嶋 浩之氏 (税理士、税理士法人武生中央会)

●この10月導入予定の消費税の改正は、単に税率を上げるだけでなく、軽減税率やインボイスといった、将来の税システムに向けての一歩となる重要な変化や準備が求められています。

●既に消費税を納めている団体はもちろん、現在消費税を課さない団体・事業者も無関係ではないといえます。今後の変化に備えてのセミナーです。

【お申込み・お問合せ】認定NPO法人さばえNPOサポート
TEL: 0778-54-7055 E-Mail: info@sabae-npo.org

【2019. 1. 22 (火)】
〈市民活動で必要な消費税対策セミナー〉

〈協力事業 (チラシ作成などを担当)〉

私の声が未来を創る!

全国OCサミット
in 鯖江 2018

9月8日(土)
13:30~ 受付開始 13:00

会場: 鯖江市鷹陽会館
参加費: 500円
申込締切: 8月20日(月)

●ポイント★
「いどばたかいぎ」の
「ようこそ」

●参加スケジュール
13:30 受付開始
13:30 開会式・開会式後
14:00 各団体発表
14:30 懇談会
15:00 閉会

●主催: 鯖江市鷹陽会館
●共催: 鯖江市鷹陽会館 事務局
●実行委員会: 鷹陽会館 事務局
●実行委員会: 鷹陽会館 事務局
●実行委員会: 鷹陽会館 事務局

まちづくり大博覧会

【開催日】2019年2月11日(月・祝)
【開催時間】13:00~15:00
【会場】鯖江市民活動交流センター
【参加費】無料

●市民一人一人が「鯖江の株主」=「サバヌシ」である。それが「サバヌシ総会」の考えです。

●“お客様”ではなく、責任ある“株主”として地域にコミットする。…その入り口のひとつが、この「サバヌシ総会」です。

●ぜひあなたも、「サバヌシ」として“未来のビジョン”を語り合う熱いイベントにご参加ください!

▲まちづくり応援団向け
出展団体募集チラシ

ニホンイシガメ **ギンヤンマ** **コイ**

はちゆうい こんちゅう さかな

【2018. 8. 9 (木)】〈くぼう! 遊ぼう! 河原へGO!〉
※子どもたちに配った「生きものカード」作成

【2018. 9. 8 (土)】
〈全国OCサミット2018 in 鯖江〉

チラシ&ポスターで振り返る さばえNPOサポートの平成30年度

『OSANPO』を発行している「さばえNPOサポート」は、今年度もいろいろな事業や活動をしてきました。その記録を、チラシやポスターで振り返ります。

自然体験「あすわ川・水と命の道」#2

川がまちと出会う場所
～「川の水」の気持ちで観察する、ボートくだり～

■日時: 2018年 9月24日(月・祝)
午前の部 9:00~11:45
午後の部 13:30~16:15

■集合場所: 福井市坂垣橋下流 足羽川右岸(北側) 福井市南見3丁目

■このポスターは、SAVE JAPAN プロジェクトの一環で作成・制作したものです。

共催: 一般社団法人 環境文化研究所、認定特定非営利活動法人 さばえNPOサポート
協力: 認定特定非営利活動法人 日本NPOセンター
協賛: 福井市教育委員会、鯖江市教育委員会、越前市教育委員会、池田町教育委員会、福井新聞社、福井ケーブルテレビ、さかいワールドテレビ

自然体験「あすわ川・水と命の道」#1

源流に会いにいこう
～“生きものセンサー”を、ときずませろ!～

■日時: 2018年 7月16日(月・祝) 9:00~12:40

■集合場所: 新保ファミリースキー場 駐車場 福井県今立郡池田町新保13-4

■このポスターは、SAVE JAPAN プロジェクトの一環で作成・制作したものです。

共催: 一般社団法人 環境文化研究所、認定特定非営利活動法人 さばえNPOサポート
協力: 認定特定非営利活動法人 日本NPOセンター
協賛: 福井市教育委員会、鯖江市教育委員会、越前市教育委員会、池田町教育委員会、福井新聞社、福井ケーブルテレビ

【2018. 7. 16 (月・祝) / 9. 24 (月・祝) / 10. 14 (日)】(全3回)
〈SAVE JAPAN プロジェクト2018
『あすわ川・水と命の道』〉

さばえNPOサポート
寄付すると
何がイの?

▲寄付募集パンフレット

指定管理業務に関する
会計講座

6/28(木) 10:00~11:30

●参加無料

■会場 鯖江市民活動交流センター 大会議室

■講師 高嶋 浩之氏 (税理士)

●NPO法人や、お協会の会計担当者の方も大歓迎!

鯖江市/認定NPO法人さばえNPOサポート

【2018. 6. 28 (木)】
〈指定管理業務に関する会計講座〉

自然体験「あすわ川・水と命の道」#3

川の生まれる山へ
～緑と生きものの世界で、山歩きに挑戦!～

■日時: 2018年 10月14日(日) 8:15~11:50 (7:45 受付開始)

■集合場所: 新保ファミリースキー場 駐車場 福井県今立郡池田町新保13-4

■このポスターは、SAVE JAPAN プロジェクトの一環で作成・制作したものです。

共催: 一般社団法人 環境文化研究所、認定特定非営利活動法人 さばえNPOサポート
協力: 認定特定非営利活動法人 日本NPOセンター
協賛: 福井市教育委員会、鯖江市教育委員会、越前市教育委員会、池田町教育委員会、福井新聞社、福井ケーブルテレビ

さばえNPOサポートでは、
ここでご紹介した以外にも
たくさんの方の事業に関わってきました。
今後とも、ぜひ応援をお願い致します!!

SABAE
NPO
SUPPORT

SABAE
NPO
SUPPORT

SABAE
NPO
SUPPORT

2年ぶりの編集後記座談会は、
そろそろ春の気配も本格的になつてきた季節に
鯖江市某所にて開催されました。
それぞれの関わり方で『OSANPO』を
創り上げたメンバーたちが語る
『7歩目』の真実とは？



D そう！ 大手のサイトなんか特に、
閲覧履歴とかから、その人が興味
持ちそうな情報をAIで分析して、
『あなたにオススメの記事』とか
出してくるじゃないですか。
あれ、読む方としては便利だった
り、気分が良かったりするのには確
かだけど…
気づかないうちに「自分の考えて
ることが、世界のトレンドなんだ
ぜ」みたいな思考になっちゃう
危険性もあるんだよね。
F お買い物のサイトでも、一度買っ
た商品に関連してるものとか、ど
んどん紹介してきますよね。
あれは商売だから、こっちもその
つもりで見ますけど。
E その『情報版』って、ちょっと
怖いかも…（汗）
でも、現実、もうそういう世の中
になっちゃったよね。
C 自分もネットの本屋さんによく使
うから、あんまり言えないんだけ
ど、リアル本屋さんでネットの違
いって絶対にあるじゃないですか。
例えば、『これまで、あることも
知らなかったジャンルの一冊に出
会える可能性』なんてのは、リア
ル本屋さんうろついていた方が、間
違いなく高い気がする。
B ま、ネットショップでも、そうい
う弱点を克服しつつ、新しい商機
につなげようと日々進化してるん
だろうけど。
それも、あくまで『商売』として

E だからなあ…。
『情報の自由なあり方』みたいな
考えとは、根本的に別かもしれない
ですね。
C 知らない間に「フィルター」がかけ
られてること自体は変わらないで
すもん。
D 今の話、別に大手のサイトに限ら
ないかも。
A ネットでの情報の取り方って、ど
うしても『好きなモノ中心』にな
りがちでしょ？
C だから世の中のとらえ方が『自分
中心』っぽくなっちゃう。
A あと、根拠の薄い個人の意見だっ
て、発信の仕方によっては、大手
メディアと同じくらいの影響力持
つ場合もあるし…
B ま、それ自体は、いい部分もたく
さんあると思うよ。表現の場が
広がってるって意味ではね。
A 問題は、ネットの情報は急激にボ
ーダレスになってるのに、受け
取る側には、まだまだそれを『見
極める』だけの能力が育ってない
…ってところじゃないかな？
F 『リテラシー』ってやつですね？
A そう。見極めて活用できるかって
話だよな。
B 僕らの『さばえNPOサポート』
って団体は、いわゆる『中間支援

☆好きな情報も 好きじゃない情報も

広報メンバー募集!!

あなたもいっしょに『OSANPO』を作りませ
んか？
人とお話しするのが好きな方、文章を書くのが好
きな方、デザインやイラスト作成が好きな方など、
ぜひお気軽に事務局までご連絡ください。
待ってまーす！

【ご連絡先】
■さばえNPOサポート事務局
TEL: 0778 (54) 7055
Eメール: info@sabae-npo.org

組織』じゃないですか。
いろんな立場・価値観の人や組織
の間を取り持つっていうか…そう
いうのが存在意義なワケで。
僕らとしては、今みたいな情報の
溢れる社会で、こういう役の立
ち方ができるもんですかね？
A ちょっと話が大きくなりすぎた気
もするけど、例えば『OSANPO
O』で、いろんな視点とか価値観
で活動してる団体さんを紹介する
ことも、『知らなかった何か』に
気づいてもらう助けになるんじや
ないのかな？
B 好きな情報も、好きじゃない情報
も、両方受け取ってこそ育つのが

F 『リテラシー』って気もするし☆
なるほどですね。
A で、そのために、もっとたくさ
んの人に『OSANPO』を読ん
でもらうための努力もしなきゃ。
C あー！ そーなんですよお…
どうしても、モノが出来た時点で
安心しちゃって…
E 情報と同じで、『好きな努力』も
『好きじゃない努力』もしてこそ
の成長ってことかな？
全員 はーい。（汗）
それでは、今号はこのへんで。

☆写真の個性

A 昨年度の『OSANPO』は別冊
扱いなんで、今回が正式な形での
“本誌”新作ってことです。
B どうでした？
C 僕は、主に写真撮影役での参加で
すね。
A 確かに、BさんとDさんは、カメ
ラマン部隊として、イベントがあ
る度に参加してもらって…
今年の広報委員会のビジュアル素
材のストック充実に大貢献してい
ただきました。感謝！
D 『OSANPO』用だけじゃなく
て、『Save Japan プロ
ジェクト』とかでも、たくさん撮
りましたよね。
A うんうん。僕も、野生のシカを間
近で撮影できた時とか面白かった
なあ。
E あの写真：牡鹿の威風堂々とした
雰囲気とかも伝わりますよね♥
A へえ。そんなこともあったんだ。
C 鹿は、うちの団体の『事業報告』
の紙面に載ってるんですけどね。
ただ、皆さんの写真見ると、撮
る人の得意分野っていうか…
「この人、○○な傾向の写真を撮
る時に、魅力的な作品になること
多い」…みたいなありますよ。
F そうなんですか？
C …たえば？
F あくまで個人的な感想だけど…

☆デジタルとアナログ

A ホームページではPDFファイル
としても公開してますけど、『O
SANPO』って、基本、紙媒体
でしょ？
B 今の時代の広報として、コレにつ
いてみんなはどう思いますか？
C 紙ならではの存在感は、やっぱり、
大切にしたいんですけどお…
B もちろん、これから先、情報発信
の世界はもっとウェブの比重が高
くなりますよね。
だから、もっとウチとして出来る
こと、すべきことは頑張らなきゃ
いけないとは思っています。
ただ、ネットの情報って、コマ切
れになったり、偏ったりすること
も多いからなあ…

Bさんは、アングルとかレンズの
使い分けとか…論理的に“狙って”
高いクオリティに仕上げてるって
印象が大きいかな。
Dさんは、子どもとか女の人とか
撮影した時、時々、自然体の凄く
いい表情のショット切り取る時が
あって。
もしかして、趣味のモンダイ？
A かもネ。（笑）
…っていうか、写真に限らずそう
いうのも『個性』とか『才能』み
たいな話だから、それぞれが自分
の撮りたいカンジを大切にしてい
ればOKなんじゃ？



『OSANPO』では、これからも鯖江の市民活動団体さんを、どんどん掲載させていただきたいと思っています。

「ぜひ、私たちのことも取材して！」という団体の皆さんは、さばえNPOサポートまでご一報下さい。



『OSANPO～7歩目～』

- 2019年3月 初版発行
- 発行人：広報委員会
- 発行所：認定特定非営利活動法人
さばえNPOサポート
福井県鯖江市長泉寺町1-9-20
TEL:0778-54-7055
FAX:0778-54-7058
E-mail：info@sabae-npo.org
● <http://sabae-npo.org/>